



国立病院機構の
シンボルマーク

しん じ こ

糸道湖

独立行政法人国立病院機構

松江医療センター
呼吸器病センター

〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL(0852)21-6131 FAX(0852)27-1019
 URL <http://www.matsue-medicalcenter.jp/>

発行責任者
 院長 徳島 武
 編集者
 事務部長 嘉藤 一博



三瓶山の朝焼け

国立公園「三瓶山」(さんべさん)は、島根県のほぼ真ん中に位置し、主峰の男三瓶(標高1126m)を中心に、火山口原を取り囲むように6つの峰々が環状に連なっている山です。登山や紅葉狩り、スキーやアウトドアスポーツ、温泉など四季折々の贅沢な自然を堪能でき、また近くには世界遺産の石見銀山もあり人々を魅了しています。

<div style="display: flex; justify-content: center; gap: 10px;"> も く じ </div>	
総合診療棟の建て替えについて……………2	平成24年度青年共同宿泊研修に参加して……………9
第7回呼吸器市民公開講演会……………3	健康教室……………9
教育研修部より……………4	しじみ会(七月七夕号 八月夏の号 九月初秋号)……………9
教育研修部の院内認定部門研修スタート……………5	地域連携室だより……………10~11
看護フェア……………5	島根県進行性筋萎縮症児(者)療育キャンプ開催……………12
春雨や落雷さん真打ち昇進 落語会開催……………6	七夕会行ないました……………13
サマーコンサート……………6	開業医紹介コーナー……………13
中学校・高校生一日看護体験……………7	外来診療表……………14
重心筋ジス神経難病体験学習……………8	

基本理念 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。

総合診療棟の建て替えについて

企画課長 長島 潔

3年前の平成21年7月、病棟を建て替えましたが、既設の外来、放射線科、検査科、リハビリ等までの動線が長く、患者さまにはご不便をお掛けしていました。また、老朽化による雨漏り、漏水、配管の破れなどが多くなり難渋していました。



現在の写真

動線短縮、設備の更新と併せて高層集積等による省エネルギーを図るべく、総合診療棟を整備することとしました。ここまでは、この宍道湖平成23年10月号でご紹介したとおりです。

平成21年、自己資金50%で病棟建て替えをしたのち、全国の重心筋ジス施設が、国の補正予算（自己資金なし）で整備されることとなったことから、数十施設の整備が一気に始まり、当院の総合診療棟（工事名：外来管理診療棟）基本設計、実施設計の承認までの機構本部確認作業は、かなり後回しになり大幅に遅れることになりました。その後、平成24年2月に基本設計がやっと承認され、実施設計がこのほど9月に完成しました。これから入札を行い、11月中旬から工事にかかる予定です。

平成22年7月、本部現地ヒアリングの時に3.1億円であった預託金（家を建てる頭金のようなものです）は、職員皆さんの努力により平成24年3月、8億円までになりました。総合診療棟の頭金の準備ができました。これは、5階病棟の整備費も含めた、毎年の借入金元本返済と利息、約3億円を支払いながら積み上げた成果です。

平成23年4月建替の基本計画承認時には平

成25年5月完成、との見込みでしたが、現在では平成25年12月の完成見込みです。明けて平成26年正月を新棟で迎えられるように計画しているところです。

更には、老朽化した看護師宿舎の更新築も行います。既存建物解体後の広大な外構整備が終わる平成26年夏には、上乃木五丁目は全く生まれ変わっているでしょう。

建物については松江医療センターの診療方針であり、また地域医療の役割である呼吸器疾患、神経難病、筋ジストロフィー、重症心身障害（児）者等の診療に特化した、無駄のない、動線の短い、コンパクトな設計としています。豪華なハコモノではありませんが、職員のホスピタリティが感じられる空間を提供したいと思います。

平成23年4月承認後に文化財保護法による遺跡発掘が二回に分けて行われました。何か貴重な物が出れば計画は大きく変わるか、やり直しになってしまいます。発掘の結果、幸いにも大した物は出てこないで終了し、安心しました。一方で同時期、お隣の東出雲町では、すごいハニワ群が掘り出されて、大変なことになっていました。

これから、職員一丸となり松江医療センターのリニューアルに向け頑張って行きますが、工事のため患者さま、連携医療機関さま、また近隣市民の方々にもご迷惑をお掛けすることになります。ご理解ご支援のほどをよろしくお願いいたします。



完成予想図（ワイヤーフレーム）

第7回呼吸器市民公開講演会を振り返って

薬剤師 錦 織 良 平

今年で7回目となる呼吸器市民公開講演会ですが、昨年同様くにびきメッセで6月30日に開催されました。昨年までは肺がんに関する講演を中心に行ってきましたが、今年はみなさんの意見を聞いて気管支喘息についての講演となりました。呼吸器病センターを掲げている当院でするので、今年は市民のニーズにこたえ、肺がんに限らず、気管支喘息等の疾患に対象を広げるという形になりました。



特別講演（南岡山医療センター水内先生）

今回の呼吸器市民公開講演会のタイトルは「知っていますか？子どものぜんそく おとなのぜんそく」ということもあり、講演では子どものぜんそくについて、続いて大人のぜんそくについて、最後に私が吸入薬剤についてお話ししました。子どものぜんそくについては南岡山医療センターの水内先生が、大人のぜんそくについては当院の池田先生がたいへんわかりやすく講演をされました。喘息治療において吸入薬剤はとても大切な薬剤です。毎日忘れず吸入をすること、正しい吸入操作で吸入をすることがカギになります。毎日の業務ではマンツーマンで吸入指導を行うことは日常茶飯事です。大勢の人前で吸入操作について説明するのははじめての経験でした。スライドをつくる時には、わかり

やすく説明できるよう動画を入れたほうがいいのでは??専門用語を使うとわかりにくい、もっとわかりやすい言葉を使ったほうがいいのでは??など貴重な意見を頂きました。それらを反映し、吸入薬について少しでも知ってもらえたのであれば幸いです。

さて、今回の講演から新しい試みとして来場した方に質問用紙を配布しました。講演中に気になったこと、わからなかったことをこの質問用紙に書いて頂き、その質問に演者が答える時間を設けました。質問用紙を配布することにより、大勢の人前で質問をすることに抵抗がある方でも気軽に質問をしやすくなったのではないかと思います。また、頂いた質問を今後の業務に活かしていきたいと思えます。

今回の講演には約150名の方が参加してくださいました。暑い中足を運んで頂いた方々と、そして、後援・協力をいただいた関係機関の方々、準備・運営に携わった当院職員の皆様、お疲れ様でした。



パネルディスカッションの様子（筆者は左）

教育研修部から

— 「戦略的に。ひたむきに。」 —

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

何か大きなことを成し遂げるにはビジョンが必要です。ビジョンを現実化するにはそこに「戦略」がなくてははいけません。

『大辞泉』によると 戦略とは、

1. 戦争に勝つための総合的・長期的な計略
2. 組織などを運営していくについて、将来を見通しての方策。

とあります。もちろん、ここでは2の意味で用いていますが、組織を運営して意義のある仕事をするには、将来を見据えて動くことが非常に重要です。

そして何か大きなことを成し遂げるには情熱が必要です。それには一瞬で燃え尽きるような情熱ではなく、継続的な冷静さを伴う情熱です。私はそれには「ひたむき」という言葉が相応しいと思っています。

「戦略」もなく、「ひたむき」にやらなければ、大きなことを成し遂げることなど到底できません(表参照)。

「戦略」も「ひたむき」のどちらか一方が欠けてもうまくいかないのです。

「戦略」があっても「ひたむき」にやらなければ、計画は絵に描いた餅になってしまい、夢を語るだけの無責任な夢追い人となってしまいます。

「ひたむき」なだけで「戦略」がなければ無駄な努力に終わってしまう可能性が高いし、何をやっているのかわからない迷い子になる可能性が大なのです。

戦略 (+) 戦略 (-)

ひたむき (+)	成功	迷子
ひたむき (-)	絵にかいた餅	×

「戦略的に、ひたむきに」。

これが大きな仕事を成し遂げるkeywordsだと私は思っています。

それでは「戦略的に、ひたむきに」ことを運ぶには

どうしたらよいのでしょうか？

私は下記3つが重要と考えます。

まず自分がprofessionalであることを強く認識すること。

そして、自らを常にupdateすること。

組織における自らの果たすべき貢献を考え、それに集中して仕事をする。

そうしていれば常に問題点が見えてくるはず。今のままでいいわけではないのです。現状に甘んじるのなら、それは甘えです。updateしなければ判断は鈍ります。でも、なかなか自分を変えられない。それはルーチンワークで思考が硬化しているからです(『宍道湖』2011年10月号参照)。思考が変われない、硬化してしまうのは思考にもホメオスタシスが影響しているからなのです。しかし、我々は医療現場で働くprofessionalなのですから、必要に応じて思考を変えていかなければなりません。自分が組織で貢献できることを真剣に考えれば、自ずとやるべきことは決まってくるはず。何とか現状を打破したい、そんな思いが情熱です。情熱が生まれたその時こそ「戦略」を立てるチャンスだと私は思います。

「professional である皆さんがprofessional であり続けることができるように院内教育を充実させる」これが教育研修部が当院で果たすべき貢献です。即ち教育研修部の仕事は非常に大きな仕事です。院内教育システムをさらに強固なものにし、院外へアピールをしています。そして、当院の教育研修部の特徴は多職種から構成されているという点であり、これこそが最大の強みです。これにより、偏りなく様々なアイデアが生まれ、思考が硬化しません。教育の機会平等を維持するのにも極めて重要なシステムなのです。このような試みを行っている医療機関は現時点ではまだ珍しく、オンリーワンの存在だと自負しています。

より充実した教育研修を提供することで、「professional である皆さんがprofessional であり続けることができるように院内教育を充実させる」という大きな仕事を教育研修部はこれからも担っていきます。

そう、「戦略的に、ひたむきに」。

● ● ● 教育研修部の院内認定部門研修のスタート ● ● ●

2012年4月から教育研修部が設立され、4つある部門の中の一つに院内認定部門があります。今年度は「神経筋難病・呼吸器ケア・医療機器マスター」の3つの教育課程をスタートさせています。1年間それぞれの教育課程を受講し、最終試験の合格をめざします。今年度の受講者は、神経筋難病コースには5名、医療機器マスターコースは7名、呼吸療法コースには8名がチャレンジしています。春には院内認定を受け白衣の胸に星マークの刺繍を付けた看護師の誕生に期待がふくらみます。院内認定を受けた看護師はスペシャリストとして、患者によりよい看護の提供が出来るように、看護の質の向上をめざし指導的立場で活動を行います。

院内認定看護師としての自覚と、院内認定看護師であること目印として、呼吸器ケア院内認定看護師はオレンジの星マーク、神経筋難病看護院内認定看護師はみどりの星マーク、医療機器マスター院内認定看護師はピンクの星マークの刺繍を白衣に入れました。

副看護部長 坂本 節子

昨年新たに誕生した7名の呼吸療法認定士、ならびに既に同資格取得済みの看護師に対して、院内認定看護師（呼吸療法）認定書と、オレンジの星マークのついた白衣の贈呈式を6月13日院長から授与していただきました。

呼吸器病センターとして、重心・筋ジス・神経難病の専門病院として熟練した看護技術と知識を用いて、質の高い看護実践できる看護師の育成をめざしていきます。



看護フェア

あなたの健康…応援します！ 開催して

看護師 松本 麻衣子

看護部広報委員会では、医師・事務・栄養科など他部門の力を借りて、看護フェアを6月14日開催しました。今年度のテーマは、「あなたの健康…応援します！」です。当院近くのスーパー「みしまやさん」に場所を提



供していただき、買い物にこられた方や地域の方を対象に、健康相談・看護相談・身体計測など行いました。私はスタッフの一員として体脂肪測定に参加しました。当日は梅雨の合間の晴れ間で、天候にも恵まれ沢山の方に来ていただきました。総勢69名の参加でした。看護フェアに参加くださった方は健康に関する関心も高

く、検診結果を熱心に聞かれていました。結果が良かった方も、「健康には気をつけないと…」と言い、笑顔で帰られました。また医師の健康相談コーナーでは相談後「また受診に行きます」と笑顔で会話されました。

看護フェアを通し地域の方々と交流したことで、看護は病院内だけではなく、地域に向け発信していくものだと改めて感じました。地域に根ざした病院として、今後も地域の方々の健康促進の為に活動していきたいと思えます。



ドクター春雨や落雷さん真打ち昇進 落語会の開催

看護部長 坪 嶋 美恵子

6月22日、恒例の春雨や落雷さんの落語会を開催しました。松江医療センターでは春雨や落雷さんの落語会は平成22年8月から毎年3回開催しています。今回はすでに7回目になりました。しかし今回の落語会は



いつもとは違います。春雨や落雷さんは真打ちに昇進されたのです。真打ちに昇進された春雨や落雷さんの落語を院内で間近に見ることができたのです。会場には今までで一番多い約70名の患者さんやご家族の方など集まっていただきました。落語会を楽しみに毎回参加される方もいらっしゃいます。また院内の案内ポスターを見て、待ち遠しくされていた方もいらっしゃいました。5階病棟のイベントホールはかなり広いスペースですが、落語が始まるとすぐに

寄席会場に様変わりです。今回の演目は「湯や番」です。声色を変え仕草も加えながらの絶妙な噺で笑い、春雨や落雷さんの世界に会場のみなが引き込まれ、あっという間に終了の時間になりました。春雨や落雷さんは元々医師でもあり、噺が終わった後はいつも患者さんのそばに行き笑顔で声をかけ、握手もしていただきます。この日も長期入院されている患者さんが、春雨や落雷さんの笑顔と握手に涙されていました。

真打ちに昇進され益々忙しくなられた春雨や落雷さんですが、当院での落語会を今後も続けて頂くことを約束していただき、次回落語会の予約を入れていただきました。春雨や落雷さんありがとうございました。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。益々のご活躍をお祈りしています。



サマーコンサートを開催して

看護師 布 野 さやか

さる8月8日水曜日、声楽家の周藤喜美子さん、古家孝子さん、ピアノ演奏の矢野玲子さんに来ていただき、サマーコンサートを開催いたしました。暑い夏の時期に患者さんの癒しができればと考え企画いたしました。当日は患者さんやご家族・面会の方など大勢の方に集まっていただき5階病棟のイベントホールは満席になりました。



当初歌詞カードを60枚準備していましたが、急遽追加しました。80人を超える参加となりとても盛況なコンサートでした。

コンサートでした。

先生方のピアノ演奏と歌が始まると会場の空気が一変しました。目を閉じて聞いている人、一緒に懐かしい歌を口ずさんでいる人、リズムを取りながら歌っている人など、約1時間の時間でしたが、あっという間に過ぎていきました。患者さんの中には病気で辛い気持ちの方もいらっしゃいますが、とても穏やかな気持ちになり、感激されていました。聴きに來られた患者

さんから、「きれいな歌声と演奏だった」「昔懐かしい曲もあり、一緒に歌った」と感想がありました。また「今日のコンサートはとても良かった。きれいな歌とピアノ演奏を聴いて何故か涙が出てきた…入院していてもこのようなコンサートに行くことができた」と話の途中から涙を流して話される患者さんもありました。最後にはアンコールの希望もあり、リクエストにより急遽「ふるさと」の歌とピアノ演奏のプレゼントをしていただきました。美しい歌声とピアノ演奏、ハンドベルの音色にみんなの心が癒されとても楽しいひと時でした。

演奏していただいた周藤喜美子さん、古家孝子さん、矢野玲子さんありがとうございました。



中学生・高校生一日看護師体験開催！

看護師 木村 悟

7月25日金曜日、地元の中高校生を中心に一日看護師体験を開催いたしました。今年は19名の中高校生の参加でした。昨年に引き続き参加した学生もいました。男子学生は3人です。3人とも優しそうで、是非看護師になって貰いたい高校生でした。頼もしい限りです。すでに白衣に着替えているので、どこからどう見ても完璧看護師。19名の中高校生は“一日松江医療センター看護師”に変身!! 坪嶋看護部長の挨拶から始まり、当院の概要や機構病院附属看護学校の説明を聞き、いざ患者さんの待つ病棟へ向かいます！



我が3階（重心）病棟では、看護師長による病棟説明の後、病棟内の見学と体験を行いました。3階病棟ではほとんどの患者さんがサークルベッドや高作ベッドを使用していて、一般病棟にはない病棟の雰囲気一同驚きの表情でした。「なんか怖い。不安。結構揺れるんだ…」などそれぞれが患者さんの身になって体験することが出来ました。そしてお互いの体温、脈拍を測り合って、デイルームに集まった患者さんと一緒に朝の会に参加。「なんか患者さんが活き活きして楽しそう」「こういう仕事も楽しそうだな」という言葉を聞くことができたことは、私たちの大きな収穫でした。ただ、時間に制限があり患者さんとふれあう時間が充分確保出来なかった事が担当者の反省です。

最後の意見交換・振り返りでは、中高校生の小グループに担当看護師が入り、体験を通して感じたことや質問を聞きました。既に看護師になるため、目標に向かって前に進んでいる学生、将来何がしたいか悩んでいる学生など色々な学生さんがいましたが、それぞれが自分の将来を考え、前を向いて歩いているんだなど実感いたしました。

今回参加された19名の中高校生の皆さんは、一日看護師体験を通し、看護師の仕事をちょっとだけ覗くことが出来、当院の雰囲気も伝わったようです。ある学生の感想文の中に「専門学校を卒業したら、ここの病院で働きます。なので、ここの病院の奨学金を借りようと思っているので、宜しくお願いします」「ここの病院の看護師さんの姿を見て看護師になろうと思うようになりました」と担当者としてとても嬉しい意見を頂きました。この経験が皆さんの看護師を目指す気持ちの後押しとなり、すてきな看護師になるきっかけになれば嬉しいです。一日看護師！素敵でしたよ。お疲れ様でした。またお会いできることを楽しみにしています。



看護学生 重心・筋ジス・神経難病体験学習を開催

教育担当看護師長 杉谷 美奈子

7月30日月曜日、第1回看護学生重心・筋ジス・神経難病体験学習を開催いたしました。この体験学習は看護学生が当院専門の重心・筋ジス・神経難病について楽しく学習し興味を持っていただくこと、体験学習を通して看護師確保に繋げる事を目的に、今年度から企画いたしました。当院の専門医療である呼吸器疾患については、今まで春休みを利用して呼吸器体験学習を行っていましたが、重心・筋ジス・神経難病学習会は初めての取り組みです。出来るだけ多くの学生に参加していただきたく、時期を夏休みにしましたが、結局3年生は実習中の学校もあり、参加者は1・2年生の17名でした。看護学生は3年次の統合実習で重心・筋ジス・神経難病患者の看護を学びますが、実習時間も限られています。専門性の高い看護について実習だけでは充分伝えきれず、また学ぶことも難しい現状です。今回まだ統合実習を終えていない1・2年生に対



して企画内容が少し難しいかなと心配しましたが、体験学習と言うことで沢山の学びとなり、充実した学習会になったので報告いたします。

開会式で病院概要を説明した後、ベテラン看護師さん達に病棟紹介と、看護体験を語ってもらいました。また神経難病について当院の神経内科・臨床研究部長の足立芳樹先生に最近のトピックスも交え、わかりやすい講義を受けました。栄養士さんには重心・筋ジス・神経難病患者の食事について、サンプルを見せていただきながら楽しい講義を聞きました。また一番大変であり大切なコミュニケーションの方法については、OTスタッフから透明文字盤やタッチセンサー・特殊ナースコールなどについて講義を受けた後、実際に機器に触れ体験を行いました。実際に手に触れ体験することでコミュニケーション技術の難しさを実感したようで



す。午後からは午前中の講義で知識を深め、それぞれ配置された病棟へ行って看護体験です。今まで見たこともなく体験したこともない、電動車いす・リフト・こまわり・サークルベッド・ポジショニングの仕方について、病棟の担当看護師から説明を受け、それぞれが体験しました。病棟では今日の日の為に、病棟独自の体験内容を考え工夫を凝らしていました。最後に新人看護師とのトークの時間では、ジュースを飲みながら和やかな雰囲気では話が弾みました。新人看護師は「重心の看護がしたくてこの病院を選んだ」「自分がどんな看護をしたいかが大切だ」としっかり自分の考えを話していました。参加した学生さんの感想から「丁寧に詳しく教えていただいた」「すべてが初めての体験でとても勉強になった」「コミュニケーション技術やポジショニングなど体験できて良い経験が出来た」「次回も参加したい」等々嬉しい意見を沢山頂きました。

これから1・2年生は講義や実習を通して看護の知識を深め、立派な看護師を目指して行くわけですが、今回体験した看護体験を通して今後活かされていくものと思います。そして何よりも今回の企画を通して当院の医療・看護を知っていただき、当院で働きたいと思う看護師に繋がって行くことを期待しています。



平成24年度青年共同宿泊研修に参加して

看護師 松本 麻衣子

9月4日から9月7日までの4日間、平成24年度青年共同宿泊研修に参加しました。この研修の日程は、国立病院機構本部からの研修から始まり、3日目以降は静岡県御殿場の国立中央青少年交流の家での研修でした。

全国から同世代の様々な職種の方が参加しており、互いの職種の話を知ることができました。講義「他職種を知ろう！」でも詳しく聞くことができ、今後他職種と関係づくりにつなげていきたいと思えます。グループワークが多く、中でも印象に残ったのはQC活動について学ばせて頂いたことです。はじめはQC活動について知識も経験もなく不安に思っていた参加しましたが、講義を聞きお互いの意見を出し合うことで、より理解が深まりました。意見交換するうちに、私にもできることから始める必要があると感じました。業務の合間にも、疑問点を解決したり、無駄を省くなど、職場

の活性化につながるように心掛けたいと思いました。3日目の富士登山では、足場も悪く何度も進んでは滑り落ちることの繰り返しでした。登山時間は短かったのですが、グループの皆に励まされ双子山の頂上まで登ることができました。富士登山は初めての経験で、辛かったのですが仲間のあたたかさに感動しました。

その後の野外炊事や懇親会でもみんなと楽しく交流を深めることができました。今回のように全国の同世代の他職種の仲間と過ごした貴重な経験を今後に活かしていきたいと思えます。貴重な経験の機会をいただき、ありがとうございました。



健康教室 「薬との上手なつきあい方」を開催しました

看護師 松本 麻衣子

看護部広報委員会では他部門の力を借り健康教室を開催し、今回で4回目となりました。今回は「薬との上手なつきあい方」と題して当院薬剤師よりお話を聞き、約20名の方に参加していただきました。家族の方も一緒に参加していただき、とても有意義な時間でした。皆さん真剣な表情で時には頷きながら、薬剤師の話聞いておられました。患者さんからは「サプリメント」についての質問や、「飲み忘れてたらどうすればいいの」「飲みにくい薬はどうしたらいいの」など日頃困っている薬について沢山の質問がありました。質問に対しては薬剤師から、具体例を出しながら丁寧に答えていただきました。後日参加していただいた患者

さんから「とてもわかりやすい話だった」と笑顔で感想を聞くことが出来ました。わずか30分という短い時間でしたが、患者さんと和やかな雰囲気でのコミュニケーションが弾んだ勉強会でした。

健康教室は定期的開催させていただき、少しずつ定着してきました。これからも患者さんやご家族の方に沢山参加していただける勉強会を企画し開催していきたいと思えます。



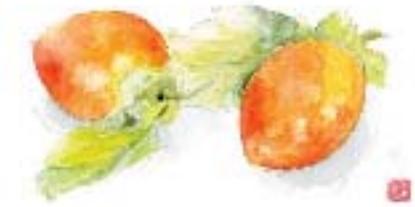
しじみ会 (七月七夕号 八月夏の号 九月初秋号)

- ・紫陽花に 朝霧しっとり 七変化
となりの住人
- ・浴衣着て 線こう花火 親子かな
やどかりさん
- ・熱帯夜 窓を開けては 虫の声
永島さん
- ・イチローは 常に挑戦 燃えている
[K]さん
- ・秋暑し 降る雨足らず 暑さまし
京の静さん

- ・わが町の 山・川・人に 支えられ 心は元気 来る日々感謝
愛佳(あいか)さん
- ・鈴の音が うだる暑さを 忘れさせ
[N]さん
- ・目がさめて 朝顔ながめ さわやかに
句湖人さん
- ・来年は なっていたいな 看護師に
学生三浦さん
- ・暑き日々 思い出すのは 笑顔かな
学生前田さん

地域医療連携室だより 第10号

2012年10月



1. 当院特殊外来について
第4回目の今回は、「**小児科発達専門外来**」をご紹介します！

発達専門外来の紹介

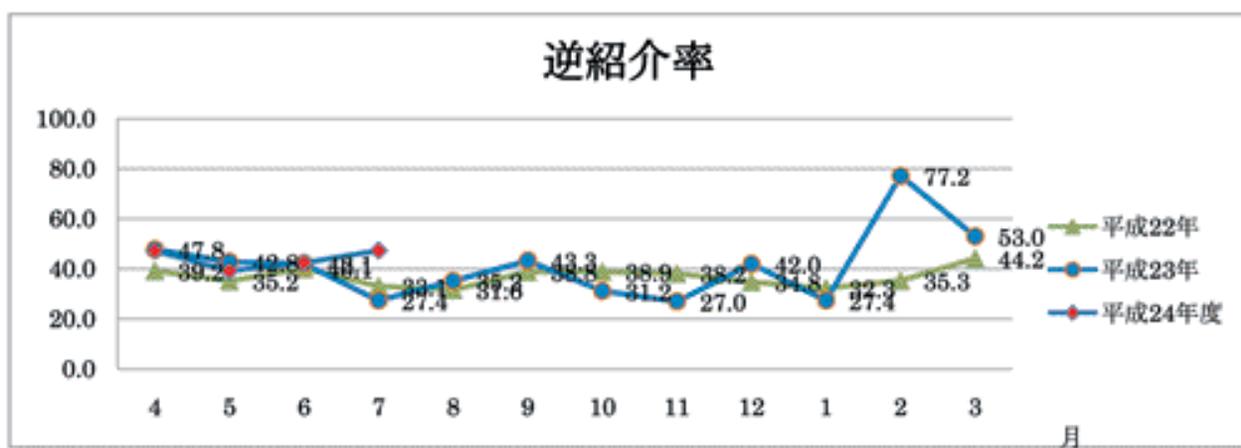
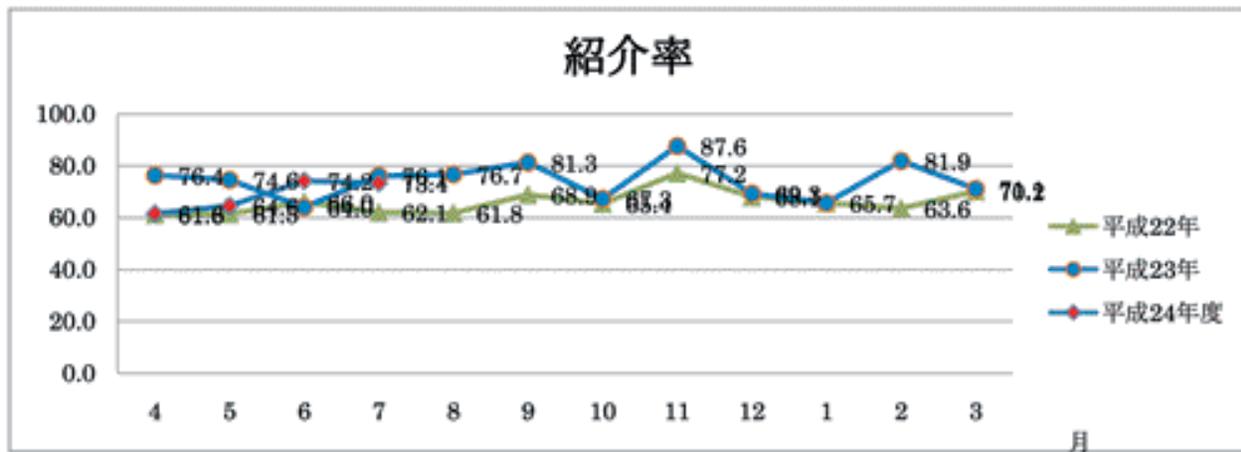
小児科 齋 田 泰 子

小児科では発達専門外来を主体に診療を行っている。疾患は、脳性麻痺、重症心身障害、てんかん、精神運動発達遅滞、二分脊椎、先天性筋症、筋ジストロフィー、染色体異常などの先天性の中樞神経系疾患、広汎性発達障害など、多岐にわたる。重症心身障害やてんかん、筋ジストロフィーについてはキャリーオーバーした患者も多いが、ここ数年は地域の医療機関からの紹介も増え、それとともに乳幼児の受診も増えてきており、患者の年齢は幅広い。当院は18歳未満の障害児病棟と療養介護病棟を有しているため、重症心身障害で短期入所や長期入院を希望して来院される方や、筋ジストロフィーの定期受診のために来院される方が多い。重症心身障害児については週1回デイケアを行っており、超重症児の療育にも力を入れている。筋ジストロフィーについては、中国地方に筋委縮症の専門医療機関は2施設しかなく、鳥取や岡山などの遠方から来られる方も多い。

診療内容においてはリハビリテーション科との連携が欠かせない。運動発達促進訓練や関節可動域訓練、呼吸理学療法、上肢の巧緻機能訓練、言語発達訓練、摂食機能療法など、必要な訓練内容も多岐にわたる。また、知能検査が必要となる場合も多く、これは療育指導室の協力のもと行っている。

小児期の神経筋疾患の患者は合併症のため、あるいは、デイサービスや訓練などのために、複数の医療機関に通院しておられる場合も少なくない。各医療機関がそれぞれの方針で診療を行っているとは患者家族に混乱を招くこともあるため、特に幼小期には関係医療機関が統一した方針で関わっていくことが重要であり、場合によっては支援会議などを開いて対応している。今後も地域の医療機関との連携を大切にして診療を行っていきたいと思う。

2. 紹介率・逆紹介率の推移



3. 退院支援データ

毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院支援患者	43人	45人	37人	39人								
退院先												
在宅	10人	11人	13人	13人								
施設	0	2人	0	1人								
病院	2人	6人	2人	5人								

お知らせ

第3回松江呼吸器セミナー



日時：12月1日(土) 13:00~16:00 (予定)

場所：松江テルサ 1階テルサホール

松江市朝日町478-18 TEL 0852-31-5550

テーマ：結核の集団感染について

対象：医療機関・介護施設・福祉施設等へ勤務されている方

参加費 500円

島根県進行性筋萎縮症児(者)療育キャンプ開催

療育指導室長 吉岡 恭一

昭和50年から続いている、日本筋ジストロフィー協会島根県支部主催「進行性筋萎縮症児(者)のための療育キャンプ」(通称「筋ジス在宅キャンプ」)は今年38回目を迎え、9月22日(土)～23日(日)の両日にかけて大田市三瓶町を会場に開催されました。



昨年は、古事記編纂1300年や出雲大社平成の大遷宮などのブームにあやかり、出雲市を会場に神在月に開催したのがつい昨日のこのように思い出されます。今年は、島根県中部の三瓶山を会場に企画・募集したところ、13名の患者さんと、ご家族・講師・スタッフ・ボランティア29名の、総勢42名のキャンプとなりました。松江医療センターからは例年のごとく、下山リハビリテーション科医長、齋田小児科医長を始め、小児科、看護、リハビリ、療育の各部門からスタッフとして参加し運営に協力しました。

22日(土)12時00分、松江医療センターに集合した一行は松江市営バスのリフト付大型観光バスに乗り込み、一路、出雲市近辺の参加者との合流地点である“道の駅「キララ多伎」”に向け出発しました。当日は気持ちの良い秋晴れで、「キララ多伎」では名物の“いちじくソフトクリーム”を多くの方が注文していらっしゃいました。また、これも知る人ぞ知る“キララベーカーリー”のパンを食べる参加者の姿もあちらこちらで見られました。

その後一行は、島根県西部からの参加者との最終合流地点である今回の宿舎、「四季の宿 さひめ野」に向け出発、15時に到着しました。下界と違い、一枚上



に羽織るものが必要なぐらいの気温で、秋を感じさせる清々しい空気でした。

開会式の後、国立精神・神経医療研究センター病院名誉院長 桼中征哉先生による「治療が可能になった筋疾患」と題したご講演を頂きました。ご講演の中で、ポンペ病(糖原病)の治療薬が開発され日本中で成果があがっていること、筋疾患の治療研究が着実に成果をあげていること、またデュシェンヌ型筋ジストロフィーのエクソスキッピング法による治療薬の治験の状況などが紹介されました。座長を務めていただいた鳥取大学医学部脳神経小児科教授 大野耕策先生からも、地元の大学病院としてご協力をいただけるという心強いお言葉もいただきました。その後、桼中先生、大野教授、当院の齋田小児科医長を含む小児科チームと、当院の下山リハビリテーション科医長、看護師、理学療法士による神経内科チームに分かれて個別相談が行われ、医療のみならず、教育や福祉、生活全般にいたるご相談をお受けしました。

夜は恒例の懇親会です。療育指導室スタッフが全力で(?)趣向を凝らした“自己紹介コーナー”から始まり、カラオケや談笑で一次会は終了。その後夜が更けるまでゲームを楽しんでいたお部屋、日付が変わっても



熱い議論が交わされていたお部屋もあったようです。

二日目の日程は、三瓶自然館「サヒメル」がメインのスケジュールです。子どもから大人まで楽しめる展示や「ドームシアター」での上映は、とても迫力があり、みんなで楽しむことができました。その後、道の駅“ロード銀山”で昼食をとり、桼中先生を出雲空港までお送りし、全ての日程を無事終了することができました。

いよいよ治療の時代に入ってきた筋ジストロフィーの治療研究には、世界中の多くの研究者たちが日々新しい治療法の開発に取り組んでいます。松江医療センターでも、入院・在宅を問わず、今後ともより一層筋ジストロフィーを含む神経筋疾患の患者さんの支援に取り組んでいきたいと思っております。

最後に、今なお筋ジストロフィー治療研究の世界的リーダーとしてご活躍中の桼中先生、また地元からも鳥取大学医学部教授の大野先生、大変ご多忙の中キャンプに参加していただきました。参加者一同心より感謝申し上げます。

「七夕会」を行いました

保育士 森山 智子

七月五日（木）、二階病棟で七夕会を行いました。今回は二本立てで、クイズとコンサートを行いました。「国立二階ふしぎ発見!!」と題し、二階病棟にまつわる三択クイズを"クイズダービー"、"世界ふしぎ発見"をミックスしたクイズで楽しみました。クイズ中、会場のみなで「あ〜だった、こうだった」などと、昔を懐かしく思い出し、クイズを賑やかに懐かしく楽しみました。クイズの結果は、会場優勝チームが筋ジスCチーム、解答者の優勝者は矢倉師長さんでした。

またボランティア「KTT」さんによる七夕コンサートでは、昔懐かし「マリオブラザーズ」のゲームで使われていた曲を聞くことも出来ました。聞き覚えのある曲に会場では歓声があがったり笑顔が見られました。生の演奏を間近で聴き、パッと明るい表情になったり

自然と身体が動いたり、笑顔になったりと楽しい七夕コンサートでした。

七夕会の企画進行は、筋ジスの七夕会実行委員会のみなさんでした。

ご協力して下さった皆様、ありがとうございました。



●● 開業医紹介コーナー ●●

病病 病診連携

後藤クリニック



医療法人 後藤クリニックについて



(後藤院長先生とスタッフのみなさま)

医療法人 後藤クリニック

院長 後藤 泰利

〒690-0033 松江市大庭町129-6

電話 0852-20-5100

休診日 日曜・祝祭日 木・土午後

当院は松江市の大庭十字路にて、平成13年4月より開業させていただいています。専門は循環器ですが、開業後は家庭医として、内科全般を診るようになっています。

私自身は、松江出身の昭和36年生まれで、今年51歳になりました。経歴は、津田幼稚園、津田小学校、4中、松江南高、島根医科大学と本当の島根育ちです。卒後は島根医科大学の第4内科（当時は循環器、呼吸器担当）に入局し、30歳まで循環器中心に研究、臨床をさせていただき、30歳から40歳まで松江赤十字病院循環器科で実践の医療をさせていただきました。40歳を機にこの大庭で開業し11年経過しています。

松江医療センターとの関わりでは、同じ医局出身の矢野、小林先生がおられるため、日頃から大変お世話になっています。また月1回の胸部疾患懇話会も参加させていただき、最新の知識を勉強させていただいています。開業医では呼吸器疾患がメインの病気ですので、肺炎、喘息、肺気腫、肺癌、気胸は、松江医療センターに紹介させていただいています。また胸部CTも、紹介するとすぐに撮っていただけるので患者さまにも好評です。病診連携で一番大切なことは、病院医と開業医が知り合いになることのように思います。これからも医療センターの先生方と関わりを持ちながら、患者さまに安心で、いい医療を提供できるよう努力したいと思いますので宜しくお願い申し上げます。



外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成24年10月1日現在

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域	
呼吸器内科	曜日	神田	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 神田 響	
			神田			木村		【副院長】呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他） 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
		矢野	門脇	池田	矢野	小林		
神経内科			下山		足立芳樹			
外科		徳島		目次		足立洋心		
		松岡						
小児科 発達専門外来		久保田 (予約)	齋田 (予約)	齋田 細田 (予約)	久保田 (予約)	齋田 (予約)	【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二	
	予防接種		(予約)					【臨床研究部長】神経内科 神経内科・リハビリテーション
特 殊 外 来	肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術(肺癌・自然気胸他) 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科	
	睡眠時無呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約)			
	息切れ外来		呼吸器内科 担当医(予約)					
	喘息 アレルギー外来					池田 (予約)	【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 細田 千佳	
	咳嗽外来					池田 (予約)		
	禁煙外来				毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)			
	アスベスト 外来		小林 (予約)	木村 (予約)	門脇 (予約)			
	嚔下障害 外来		下山 (予約)					
	神経難病 外来		下山		足立芳樹			
	筋ジストロフィー 専門外来				下山 (予約)			
セカンド オピニオン 外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)			

診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30
 自動再来受付 7:30~11:00

独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター
 呼吸器病センター
 〒690-8556 松江上市乃木5丁目8番31号
 電話 (0852) 21-6131(代)
 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671
 医療連携室 F A X (0852) 24-7661



特 殊 外 来	小児科発達 専門外来	診療日：毎週月～金曜日 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っていきます。
	肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00～16:30 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円(+喀痰検査で6,300円)
	睡眠時無呼吸 外来	診療日：毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息 アレルギー外来	診療日：毎週金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診療日：毎週金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10:00～12:00 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30～11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	嚔下障害外来	診療日：毎週火曜日 8:30～ 嚔下障害外来 (要予約)
	神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 8:30～ 神経難病外来
筋ジストロフィー 専門外来	診療日：毎週木曜日(予約=指導室まで) 8:30～ 内容と特色：筋ジストロフィー病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジストック)も受け付けています。	
セカンド オピニオン 外来	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジス)の専門医(医長)が担当いたします。	